

緑化だより

No.172 令和 3年6月号



ヤマアジサイ“紅(くれない)”

- 季節の花(ノハナショウブ)
- 昆虫の話(6月のチョウ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(12-2))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

ハナショウブ

「をみなえし 佐紀沢(さきさは)に生(お)ふる 花かつみ

かつても知らぬ 恋もするかも」

中臣女郎(なかとみいらつめ) 万葉集 巻4-675

これを訳しますと

(佐紀沢のほとりに、誰にも知られずひっそりと咲いている、あでやかな紫色の花かつみの花のように、これまでに経験したことのない恋をするものですね)

佐紀沢(さきさは)は現在の奈良市の平城京北部、水上池のあたりで、この歌は中臣女郎(なかとみいらつめ)が、大伴家持(おおともやかもち)に恋心をいだいて贈った歌です。

愛しい人の姿を優雅で憧れの花に重ねて詠んでいます。

花かつみ(花且美)は実在しない幻の花とされていますが、江戸時代後期、寛政7年(1795年)に藤崎知明が書いた「花かつみ考」に描かれた花の特徴が「ノハナショウブ」にほぼ一致しているので、それではないかとの説が有力です。

ノハナショウブはアヤメ科アヤメ属の多年草で、水辺や湿原に生えています。花期は6~7月で、赤紫色の花びらに黄色のすじが入るのが特徴です。これを蜜標といい、昆虫を誘います。葉は剣形で太い中脈が目立ちます。

北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸の北部、シベリアに自生しています。広島県北広島町八幡高原、霧ヶ谷湿原はヌマガヤマアザミ湿原のほぼ南限にあたり、ノハナショウブが自生しています。

園芸品種の「ハナショウブ」は色や形が華やかで非常に美しいです。これは野生の「ノハナショウブ」の色変わり種が選抜され、品種化したものです。花の色は白、桃、紫、青、黄色の色の変化に富み、世界でもっとも多い種類の花が、室町時代後期から江戸時代にかけて品種改良されてきました。初夏のひと時、ハナショウブは梅雨の中でも、ひときわ華やかに咲き誇って我々を楽しませてくれます。(上村)



ノハナショウブ



ハナショウブ(園芸品種)

昆虫の話

6月のチョウ

今年の広島県は5月15日と早い梅雨入りでしたが、例年、6月に入ると気温・湿度とも上昇し、さまざまなチョウが羽化します。そこで今回は、この時期に「エノキ(榎)」で発生するチョウ4種を紹介します。

エノキは、県内各地に生育する高木性広葉樹で、樹形が美しく、木材も良質で、覚えておき

たい木の一つです。ただ、あまり群生せず、街路樹に用いられることも少ないので、食用キノコ「えのきたけ」に比べると樹木のほうはなじみが薄いと思われます。

5月後半、エノキで最初に羽化するのが、**ゴマダラチョウ**と**テングチョウ**です。ゴマダラチョウは、樹冠周辺を俊敏に飛翔し、気づきにくいですが、テングチョウは、近年、大量発生し、道脇の湿地に集まって吸水するので目につきやすいです。パルピ(下唇鬚)という口器が前方に長く伸びており、テングの名前がついています。6月に入ると、**ヒオドシチョウ**が羽化します。年月とともに赤糸が茶褐色に変化した鎌倉武士の甲冑を「緋緘(ひおどし)の鎧」というそうで、翅の色が絶妙な名前で表現されています。



左上:テングチョウ 中上:ゴマダラチョウ雄 右上:オオムラサキ雄
左下:ヒオドシチョウ 中下:ゴマダラチョウ雌 右下:オオムラサキ雌

さて、この3種のチョウ、一斉に羽化し、よく見かけると思っていたらその後、突然姿を消してしまいます。ゴマダラチョウは、産卵後に生涯を終え、7月下旬に2世代目が羽化しますが、テングチョウとヒオドシチョウは成虫のまま休眠に入り、秋に少し活動した後、さらに冬越して、翌春産卵します。夏眠と冬眠を経るとさすがに翅が損傷し色褪せますが、早春にビリビリでも元気に飛び回る姿には逞しさを感じます。今年還暦を迎える小生もかくありたいと思う今日この頃です。6月後半になると国蝶**オオムラサキ**の羽化がはじまります。比較的大きな木で発生し、高所を力強く滑空し、カブトムシ等が好む樹液に飛来します。しかし、近年、こうした環境が少なくなり、数が減ってきています。県内各地で「ひろしまの森づくり県民税」の活用などにより、里山の環境が維持・保全されることを願うところです。(相良)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(12-2)

5月号はちょっと寄り道しましたが、今回は4月号の続き、東山作業道に入ってみます。

4月には孢子体をつけ始めていたコケも、5月下旬になると蒴も膨らみ、触れるとホコリのように孢子を飛ばすものもありました。

今回は、たくさん蒴をつけていた**ハリガネゴケ**を紹介します。

セン類のハリガネゴケは、日当たりのよいコンクリート、石や土の上など、街の中でも普通にみられるコケです。

茎の長さ1~2 cm、葉は長さ2 mm前後の卵形で、中肋は葉の先から伸びて出ています。乾燥すると、葉はらせん状に茎に沿います。

蒴柄は明るい褐色で3 cmの長さがあります。それがハリガネに似ていることから名前の由来になりました。円筒形の蒴は5 mmの長さで垂れ下がります。

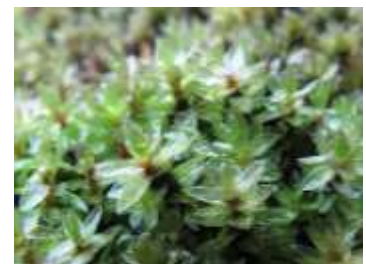
仲間に、ギンゴケ、オオハリガネゴケ、ホソハリガネゴケがあります。(山根)



ハリガネゴケ(4月)



ハリガネゴケの蒴



仲間の「オオハリガネゴケ」

研修会のご案内

- 6月1日(火) 『松の手入れ(春)』
～みどり摘入れを学ぼう～
※要予約 **中止** (名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：NPO法人 樹木医ひろしま
工藤 徹
- 6月6日(日) 『自由工作塾』
※自由 **中止** 雨天中止
10:00～15:00 レストハウス前 集合
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 6月6日(日) 『ネイチャーゲーム』
※自由 **中止** 雨天中止
10:00～15:00 レストハウス前 集合
講師：広島市
シェアリングネイチャーの会
- 6月9日(水) 『常緑樹の剪定講座』
～みどり摘入れを学ぼう～
※要予約 **中止** (名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：NPO法人 樹木医ひろしま
工藤 徹
- 6月11日(金) 『6月の自然探勝』
～梅雨の植物を観察しよう～
※自由参加 **中止**
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：広島市文化財保護審議会委員
(植物生態学) 吉野 由紀夫
- 6月13日(日) 『コケ玉づくり』
※要予約 **中止** (名)、材料費 1,200 円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔
- 6月18日(金) 『葉っぱで樹木を見分けよう』
～入門編～
※自由参加、無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家
埴田 宏
- 6月27日(日) 『梅雨のきのこ入門観察会』
～溪流路を観察しよう～
※要予約(先着 15名)、無料
10:00～12:00 **第2駐車場** 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令に伴い、6/13(日)《予定》までの期間、開催予定の研修会・イベントを中止、及び一部施設の利用を休止致します。(5/24 現在)

第19回 ひろしま「山の日」県民の集い (レストハウス前広場)
6月6日(日) 10:00～15:00 ⇒ 8月8日(日・祝)に順延

◎ 展示会

場所:レストハウス
(パネル展示)

コケ写真展「こけの表情いろいろ」 6月5日(土)～27日(日)

(ガラスケース展示)

陶友会 陶芸作品展

～15日(火)

森のクレイアート作品展

6月20日(日)～7月31日(土)



コケ写真展「こけの表情いろいろ」より



陶友会「陶芸作品展」より